

地域医療連携センターニュース

公立阿伎留医療センターは、医の心を重んじ、患者の生命と健康と生活の質を考える良質の医療を実践し、地域医療の最適化に努力します。

発行 地域医療連携センター

電話 042-558-0321(代表)

FAX 042-550-5190(直通)

皮膚科のご紹介

皮膚科医長 新田 桐子

ご挨拶

2017年度に杏林大学より皮膚科に再赴任した新田桐子です。

現在、後期研修2年目の常勤医師、月曜・木曜の二人の非常勤医師(専門医)と4人で診療しております。

私は東京杉並区に生まれ、信州大学に進み、杏林大学に入局しました。

皮膚科医としてはまだ16年目の若輩者ですが、地域の皆様、先生方、看護師さん、介護士さん、薬剤師さん、ケアマネージャーさん、リハビリ施設や老人保健施設、訪問看護ステーション、ボランティアの皆様のおかげで、これまで診療してられました。この場を借りて深謝申し上げるとともに、今後も皮膚疾患の方々のケアにご協力頂きたいようお願い申し上げます。

皮膚疾患の最近の動向

昨年はコロナ禍ということもあり、炎症性皮膚疾患が減った年でした。受診控えもあったと思いますが、疥癬やウイルス性中毒疹、蕁麻疹、薬疹ばかりでなく、乾癬や膠原病、円形脱毛症の患者さんも減少しました。

一方で、ステイホームにより皮脂欠乏性湿疹や下肢のうつ滞性皮膚炎は増えました。地球温暖化による頭頸部の脂漏性皮膚炎、手足の汗疱性湿疹は以前から増加傾向でしたが、皮脂欠乏性湿疹と手足の汗疱性湿疹はアトピー性皮膚炎でも併存するように、一緒に起こることがあります。コロナ禍による運動不足のためか、背部や四肢伸側は乾燥して痒く、掌蹠には1mm大の水疱が多発して痒いという方が増えました。保湿剤を塗るのが苦手な高齢の男性に多い印象があります。

こうした方は腋窩や鼠経、腹部の皺襞といった自己汗で保湿される部分は比較的症状が軽いという特徴があります。外用剤も処方しますが、日々の習慣として、既往やADLから不可能でなければ、湯船に15分以上浸かり、保湿剤を塗ることで全身の委縮した汗腺の機能を回復させ、手足の代償性発汗を抑えるのがよいと思います。

脂漏性皮膚炎については、頭髮をできるだけ短くするのが効果的です。外用剤が塗りやすくなり、風通しもよくなります。年齢を重ねると指の力が弱くなりますが、地肌をできるだけしっかり洗うようにともお勧めしています。

さらに近年、増えたのが動物咬傷です。ペットブームに加え、ステイホームで触れ合う機会が増したためかもしれません。動物咬傷は発症時すでに深さのある瘻孔であることが多いため、皮表の傷はすぐ閉じても、瘻孔の底で細菌が繁殖し、どれほど抗生剤を投与しても膿瘍や壊死性筋膜炎、稀には骨髓炎(図1)にまで至る方がおります。

受傷部位が四肢末梢に多いのも重症化しやすい一因です。これらの部位は脂肪織が薄く、皮膚と筋・骨のあいだが近いため、容易に牙が深部に達します。重症化させないためには、咬まれて最初の3~7日ほど、点滴針の外筒をつけたシリンジで毎日、瘻孔の底まで洗うのが肝要です。注入した液体により瘻孔周囲が盛り上がる時は、そこまで感染が及んでいるので、周囲が盛り上がらなくなり、瘻孔が浅くなるまで痂皮を剥いで洗います。

ただ、ご本人・ご家族が行うのは難しいため、土日・祝日でも救急外来に来て頂いております。

動物咬傷の方はぜひ早期にご紹介頂ければと存じます。皮膚欠損が高度・広範囲な場合は形成外科の常勤医師がいないので対応できませんが、小範囲であれば当科で徹底的に洗浄したのちに縫合することもあります。



図1

50代男性。示指を猫に咬まれた日に救急外来受診。抗生剤内服・外用を処方され、3日後に再診。

1週間おきに2回切開されるもその間に洗浄を行わず、基節骨、腱鞘周囲に感染巣(→)を形成。広範囲切開、デブリードマンを行うも改善せず、断指術となった。

ご紹介頂きたい疾患

皮下病変には腫瘍以外にも、ガングリオンや内臓のヘルニア、リンパ節、炎症、異物残留(図2)、正常構造物の肥厚・拡張、沈着、血栓、正中頸嚢胞のような遺残、迷入といった様々な可能性がありますので、触診に加え超音波、MRI、X線、CTなどで評価し、生検や切除の適応を検討いたします。

デュピルマブを必要とするような既存治療に抵抗性の重症アトピー性皮膚炎、生物学的製剤の適応のある関節症性乾癬・掌蹠膿疱症、シクロスポリンやオマリズマブの適応が考えられる難治性蕁麻疹、多発潰瘍を伴ううつ滞性皮膚炎、皮脂欠乏性湿疹で起こりがちな紅皮症、慢性痒疹、多形紅斑、ステロイドやタクロリムスの長期連用による顔面の酒さ様皮膚炎が疑われる方も、ぜひご紹介頂ければと存じます。

現在、乾癬やアトピー性皮膚炎へのヤヌスキナーゼ(JAK)阻害薬の投与は行っておりませんが、適応がある方には検討いたします。



図2

30代男性。足底で木の枝を踏み、受傷日と10日後に単純X線を撮影するも、異物なしと診断された。潰瘍が上皮化せず、3ヶ月後のMRIで異物(→)を認めた。木はX線やCTでは映らないことが多いので、エコーやMRIで確認する。

当科で対応するのが難しい症例

常勤が2人ということもあり、多発する良性腫瘍のレーザー治療は現在しておりません。切除生検で診断を確定し、美容皮膚科・形成外科へご紹介することになると思います。また、炭酸ガスしかないため、レーザーによるしみや赤あざの治療を希望される方も対応が難しいです。

光線療法は機器がないため、膿疱性乾癬や尋常性白斑などご希望の方への対応もできません。

金属シリーズのパッチテストもできません。当院で採用している佐藤製薬のパッチテストパネル(ジャパニーズ・スタンダード・アレルゲンのうち24種類)の中にニッケル、クロム、金、コバルトはありますが、鳥居薬品の金属シリーズにはさらに12種類の試薬があります。ご希望の方は調べたい試薬をお持ち頂くか、金属の試薬の揃っている施設にご紹介頂くのがよいと存じます。

もう一つ、当科で対応が難しいのが蕁麻疹、花粉-食物アレルギー症候群(口腔アレルギー症候群)、食物依存性運動誘発性アナフィラキシーといった即時型反応を疑う方のプリックまたはスクラッチテストです。これらのテストはアナフィラキシーを起こす危険があるので、基本的に入院し、点滴路確保の上、一剤ずつ行うのが望ましいですが、その間、病棟に医師一人が待機して急変に備える必要があるため、現在の態勢では安全に行うことができません。ご希望の患者さんがおられましたら、他施設へご紹介頂ければと思います。

さらに当院で対応が難しいのが、プレドニゾロン換算で体重1kg当たり1mg/日のステロイド内服を要する重症疾患で、体重が60kg以上ある方です。これまでも類天疱瘡、天疱瘡、中毒性表皮壊死症、IgA血管炎など、ステロイド全身投与の必要な症例を治療してまいりましたが、投与量がPSL60mg/日を超えますと、気分障害や幻覚を初めとする精神症状が出現する方が多く、易怒性や意欲低下により必要な検査、治療まで拒まれるときがあります。当院には精神科がないため、全身の水疱・びらんがあり、体重が多い方は、初めから精神科のある他施設へご紹介頂くのがよいと思います。

悪性腫瘍については、形成外科の非常勤医師と連携して基底細胞癌、有棘細胞癌、ボーエン病、日光角化症などを切除しておりますが、筋皮弁のような再建術が必要な大型の有棘細胞癌や乳房外 Paget 病、集学的治療を要する悪性黒色腫、血管肉腫は、杏林大学など高次医療施設へご紹介しております。

有棘細胞癌や乳房外 Paget 病は良性疾患と紛らわしいことも多く、生検して診断を確定してから送りますので、まずはご紹介頂ければと存じます。

最後に

原因のわからない皮膚疾患は鏡検→陰性ならステロイド外用(加えて、必要なら保湿するか乾かす)→改善しないなら生検という単純なステップを踏むとされておりますが、そのあいだにも様々な皮膚テストや問診、血液・画像検査、内服・外用・貼付薬の選択、洗浄、液体窒素や硝酸銀圧低、弾性包帯、外用や被覆療法の実演・指導・工夫を重ねてコントロールを図ります。「鑑別疾患を常に五つは挙げよ」とも言われるほど誤診の多い分野でもあります。痒みや痛み、整容的な悩みなどにより患者さんの生活の質が下がらぬよう、今後も誠心誠意努めてまいりたいと思います。

皆様のご指導ご協力のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

皮膚科 外来担当医表

月	火	水	木	金
佐藤典子	新田桐子	新田桐子	新田桐子	新田桐子
狩野葉子	檜崎 緑	檜崎 緑	狩野葉子	檜崎 緑

形成外科 外来担当医表 (形成外科は非常勤医師のみです)

月	火	水	木	金
		櫻村 勉		宮下 采子
		(第2週)		

地域医療連携センターよりお願い

現在、皮膚科外来が大変混雑しており、また入院患者さんの処置等も増加しているため、外来患者さんについては、一定数を超えると受付を制限させていただく日がございます。

紹介状をお持ちの方は、できる限りお断りすることなく対応させていただきますので、地域医療連携センターを通じて、事前 FAX 予約をご利用いただくとスムーズです。

FAX 予約時は、「病名または主訴」を記載いただければ、お取りできますので、ご協力いただきますよう、よろしくお願いいたします。